

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0471300459
法人名	社会福祉法人 千葉福祉会
事業所名	グループホーム なごみ
所在地 (電話番号)	栗原市志波姫北郷大門87 (電 話) 0228-22-2989
評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 19年 12月 7日

【情報提供票より】(19年 11月 27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	17 人, 非常勤 人, 常勤換算 17 人

(2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	○新築/改築
建物構造	木造	造り
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷 金	有(円)	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用 11月 27日

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	6 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83.9 歳	最低	68 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	栗原中央病院、若柳病院、三浦医院、小田島歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人は昭和56年に設立され、特別養護老人ホームやデイサービス、在宅介護支援センターを運営、平成16年にグループホームが併設され、個性を尊重した居心地のよい空間を築くことを目指している。平成19年11月地域の高齢者のため、空室利用のショートステイや共用型デイサービスの多機能性を強化し、地域に還元を図って行こうとしている。ホームには自動通報装置を設置、非常の場合地域協力員等の協力を得られる体制を構築している。夜間避難訓練では4、5分で全員を避難できる方法も身に付けている。ホームにAED(自動体外式除細動器)を配備、職員の研修も終え、緊急時に備えている。協力医療機関の支援で入居者の終末ケアを検討している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>①なごみだよりに運営の理念も掲載し啓発している。②居室の手摺は全室設置、入居者から喜ばれている。③介護計画の家族対応は、署名、捺印は勿論、説明、同意、年月日欄も新設している。④運営推進会議の内容を充実させ、非常災害時等の地域協力員の活動や地域高齢者のニーズに応じて地域に還元を図ろうとしている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>3ヶ月前全職員に自己評価表を渡し記載してもらい、管理者がまとめた。全員でじっくり確認したり、検討を重ねるのは時間的に難しい。共用型デイサービス等を設置した機会に、理念の見直しをお願いしたい。終末期の方針を決め、看取りまで行ない地域のニーズに応じてほしい。外部評価を各人が理解し、前回の課題は即実施している。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進委員は入居者や家族の代表、市職員、区長、民生委員、婦人会役員等で構成され、2ヶ月に1回開催している。地域のパイプ役になり、隣接の公園の除草奉仕や落ち葉拾い、さつま芋掘り、ぶどう狩り等地域住民との交流が図られている。ホーム課題の庭造りや旅行の付き添いなども検討したいと考慮している。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時口頭でさりげなく要望や苦情等を聞き出している。面会時の記入場所に投書箱を設置して自由に意見を出してもらうよう工夫している。家族会では何でも相談を受けるようにして、広報誌に掲載し、全員共有して課題の解決を図ろうとしている。家族等の要望は、職員で話し合い実行できるものから実践に移している。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>小学校の運動会や中学校の行事等に参加している。町の文化祭へはボランティアの協力で菊の大輪や刺し子、クラフト等入居者の作品を出品して入賞している。スタッフは入居者と共に隣地公園の春の除草奉仕や秋の落ち葉拾い、さつま芋掘り会など地域住民の協働で行っている。園の夏祭りやグループホームのクリスマス会等に、地域の人々を招待し地域との交流を積極的に努めている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「共に笑い、喜び、哀しみ、楽しみ、助け合いゆったりなごみましよう」というホーム独自の理念を作り、「なごみだより」に掲載されている。共用型デイサービスや空き室利用のショートステイを行うため地域密着型サービスとしての理念の見直しを考慮中である。	○	共用型デイサービスやショートステイを行うため、理念を再検討している。理念はホームが目指すサービスの有り方を示すもので、地域密着型サービスとしての使命を謳った理念になるようお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は目標で、仕事の指針であり、広報誌などに公表している。職員は研修や会議等で話し合い共有し、理念の実践に努めているが、まだ充分とはいえない。	○	地域密着型サービスとしての新しい理念に添った活動で、地域生活を支える拠点として、住み慣れた地域で暮らし続けるための支援を継続してほしい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公園の除草奉仕や落ち葉拾い、さつま芋掘り、小中学校の行事に入居者と職員が参加している。地域の文化祭に入居者の育てた大輪の菊や刺し子等を出品して入賞している。法人の夏祭りやホームのクリスマス会には地域の方々を招待するなど地域との交流は盛んである。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票は職員には3ヶ月前に渡し、全員に書いて提出してもらい、管理者がまとめて作成した。仕事に対する姿勢を吟味、ホームをよく理解し、不足な点を見出している。外部評価を全員が理解して、課題があればやれるものから実践に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、ホームから事業報告をして、ホームを理解した上で、委員には地域とのパイプ役になってもらっている。次回はホームの課題である、庭づくりや旅行の付き添いなど検討してもらい、サービスの質の向上に活かそうとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	新規事業の共用型デイサービスや空きベット利用のショートステイの展開に、指導や助言をもらいサービスの質の向上に取り組んでいる。地域の中心的事業所として住民のニーズに応え、地域に貢献していくよう期待されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書送付の時に近況報告や小遣い帳の写し、広報誌「なごみだより」等を定期的に送付して、入居者の生活や健康状態などを報告している。面会時に小遣い帳やケア記録等説明し、記名捺印のうえ同意をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に口頭でさりげなく要望や苦情など伺い、引継ぎ帳に記載して職員と話し合い、実行できるものから実践に移している。投書箱を設置して、意見などを出してもらい運営に反映させようと努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新規事業の共用型デイサービスやショートステイを立ち上げたので、職員の異動があり、お別れ会や職員紹介等で入居者のダメージを最小限に抑えるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護の現場で実務経験3年で介護福祉士、取得後5年で介護支援専門員を目指し、合格の際祝福するなど支援している。研修は1人年2～3回を予定し、報告会を開き共有している。県のグループホーム連絡協議会の相互評価や交換研修にも参加しスキルアップに努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会北ブロックに加盟し、管理者や職員の交流に相互訪問している。ホームの長短所を発見し仕事に活かしている。疑問点は一緒に考え、仲間作りをしている。同業者とケアマネージャーも毎年懇親会を開き、意見交換してサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の相談はベテラン職員が行い、居宅を訪問したり、本人や家族等にホームに見学に来てもらい、職員や入居者等と馴染みの関係を築くようにして安心して納得の上入居してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から家事や物事をこなし方、さりげない語り口等を見習っている。入居者のできることやしたいことを見極め、得意な面を見出し発揮するように工夫している。やった後には感謝の言葉を掛け、決して無理強いせず、尊厳を支えるケアを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者や家族の意向をうかがい、日々の暮らしの中から汲み取り、本人本位に検討しケアプランを作っている。できるだけ意向に沿えるよう家族等の協力を得て努めている。外出したい人には職員と一緒に外出したり、将棋の相手にはボランティアに来てもらっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月カンファレンスで、評価を行い、現場で気づいた点や、職員等の意見を聞いて介護計画を作成している。担当職員が課題分析を行い、計画担当者が介護計画を作成、計画の共有を図っている。面談で家族の意見や要望を把握し、介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入退院時や状況の変化に応じ、随時介護計画の見直しを行っている。毎月カンファレンスで介護計画の達成度を話し合って評価し、介護計画の見直しに役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族等の要望により外出や外泊は自由で、通院は健康情報を共有するため、職員は同行している。地域貢献として空きベット利用のショートステイや共用型デイサービスを行って、多機能性を活かし地域のニーズに応えようとしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	退院後の受け入れは主治医の支援で行っている。かかりつけ医の送迎は職員で対応して、出来ない時には家族の協力をお願いするなど、互いに情報の交換に努めている。緊急時には協力医院に終日対応してもらっている。毎年健康診断を実施している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療行為の必要がある時は、同法人の特養に申込みをしてもらっている。協力医院に緊急時も含めて終日対応してもらっている。ホームにAED(自動体外式助細動器)も備え、職員は研修も行っている。早急に終末期の指針を明確にして、職員や家族とも話し合いを持とうと検討している。	○	終末期の指針を明確にして、ホームの方針を入居者や家族、医師等と話し合い意思確認書を作るようにして欲しい。職員と話し合い、共有して、入居者が重度化になっても看取りまで対応できるように「ホームで安心して暮らし続けたい」という地域のニーズに応えていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩としての視点で言葉かけなどをし、手首を持たない誘導をしている。呼び方や目線、口調、声のトーンなどお年寄りを尊ぶ気持で職員全員で心がけている。ホームにはプライバシー尊重の気風があり、職員の応対も穏やかである。個人情報ロッカーに保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分につけ、言葉に出せない方には寄り添い、要望を推し測り支援している。生活のリズムを大事にしている。入居者の生活歴や好み・習慣等を把握し、入居者の生きがい作りにボランティアの協力で菊づくりなども行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に、食事の準備や配膳、後片付けなど役割を持って、食事を楽しんでいる。食前にトイレ誘導、テレビを消し、明るく楽しい話題でゆっくり食べている。特養の管理栄養士の献立で食事を作っている。日曜はフリーメニューで入居者と一緒に話し合っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は「夜は疲れ、忙しい」という入居者の希望で、午後2時以降、毎日入浴の支援をしている。車椅子の人は職員同行で、特養の浴槽を利用したり、足浴用器具を使用したりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	大まかな行事計画を作り、その日の天候や入居者の気分に合わせて、マンネリにならないように、季節感を味わえるような行事の支援を行っている。料理、手芸、菊づくり、畑、将棋、図書館、折り紙など入居者の選択で行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できるだけ入居者の希望に添うように外出支援をしている。出かける人が偏らないようにしている。地域の行事には入居者と職員は積極的に参加するようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解し、日中は鍵をかけていない。外出傾向の方のバックや化粧品など持ち物に注意し、居場所を確認している。また、併設施設の特養・デイに情報を提供し連携して対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域協力員や消防署立会いの訓練は年2回、避難訓練は毎月行っている。自動通報装置を設置し、消防署や地域協力員に直接通報される。11月暗くなってから夜間想定避難誘導訓練をし、4分30秒で全員避難できる方法を身につけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックや1日1300CC以上の水分量などに気をつけている。自立支援を心がけ体力の維持に努めている。同法人の特養の栄養士に献立を作成してもらい、カロリーや糖分・塩分の摂取等には気をつけ、補食も準備している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やカウンターには鉢植えや花を飾り、天井は高く木のぬくもりを感じさせる。季節ごとに装飾を変え、夏にはすだれ等をつけ西日を塞いでいる。ゆったりと寛げる家庭的な雰囲気を醸し出し、穏やかに寛げる工夫がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が使い慣れたソファやこたつ・仏壇等を持ち込み、手造りの飾り付け等にも個性が感じられる。夜具等は職員が天日干しなどをして、家族がいつでも来て心地よく居室に泊まれるよう工夫している。		